

平成 25 年

第 1 回仙北市議会定例会

教 育 行 政 方 針

仙北市教育委員会

◇はじめに

仙北市の学校教育については、昨年度に引き続き新学習指導要領の趣旨を生かし、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指して参ります。

「ふるさとを愛し、豊かな心と健やかな体をもち、確かな学力を身に付けた仙北の子ども」の育成を、幼稚園・小・中学校の共通目標として、園、学校、家庭、地域と一体となって取り組んで参ります。

また、地域に根ざした生涯学習推進のため、今後5年間の社会教育、生涯学習を推進する指針として策定した、第2次社会教育中期計画の実施初年度にあたることから、市民一人ひとりの学習支援にも積極的に取り組んで参ります。

体育施設については、市民の誰もが身近にスポーツ活動ができる環境を提供するため、仙北市体育施設マスタープランに基づき、施設の改修や廃止、管理運営方法の充実に取り組んで参ります。

文化財関係につきましては、貴重な文化遺産や伝統芸能等を後世に残し、将来へ引き継ぐため、各種の保存事業や継承事業に取り組み、文化、伝統を基盤とした誇りある市民意識の醸成に努めて参ります。

平成26年度の第29回国民文化祭・あきた2014の成功に向け、推進体制の強化、充実に努めて参ります。

特に、平成25年度は、プレ大会として「大正琴の祭典」と「アートdeまちあるき」事業の開催を予定しております。

次に各課について申し上げます。

【教育総務課】

学校施設は、子どもたちにとって一日の大半を過ごす学習や生活の場であり、豊かな人間性を育む教育環境として重要な施設であります。また、災害時には緊急避難場所など地域

の防災拠点としての役割も担っております。

子どもたちが快適に過ごすことができる学習環境の提供と災害時の利用も考慮しながら、各施設の諸工事や維持修繕事業等を必要性や緊急性を勘案しながら、計画的に進めて参ります。

【教育指導課】

◇学校教育の充実

児童生徒の命を守る防災・安全教育の充実に引き続き取り組むとともに、重点的にいじめ・不登校対策、体罰の絶無に取り組む、学校教育の一層の充実に努めて参ります。

特に、いじめ・不登校、ネットトラブル等の情報モラルを含む生徒指導上の諸問題については、学校体制での未然防止や早期発見、早期対応に努めるとともに、子どもや保護者、市民からの相談に応じる体制強化を図り、関係機関と連携して、教育委員会の最重要課題として強力に取り組んで参ります。

また、学力向上については、平成25年度の4月にすべての学校で実施される全国学力・学習状況調査、12月に実施される県の学習状況調査を活用し、市内小・中学校の課題を明確にするとともに、その解決のため北浦教育文化研究所を中心に各学校への指導を一層充実させて参ります。

◇新入学児童・生徒数と複式学級等について

平成25年度の小・中学校の新入学児童・生徒数については、小学校238人（前年児童数191人）、中学校209人（前年生徒数232人）が予定されており、昨年度と比較して小学校が47人増加し、中学校が23人減少します。

幼稚園については、平成23年度から市内の全幼稚園において3歳児からの入園を実施し、平成25年度は3幼稚園で46人（前年度園児数66人）となっております。少子化の影響で園児の確保が大きな課題ではありますが、保育園との連

携を深め、今後も魅力ある幼稚園経営を実施し、園児の確保と就学前教育の充実に努めて参ります。また、今後の幼稚園・保育園の在り方については「少子化対策・子育て支援プロジェクトチーム会議」において、子育て支援課と連携して引き続き検討を進めて参ります。

平成22年度から中川小学校と白岩小学校で複式学級が発生しており、平成24年度は、県費負担教職員及び講師を配置していただき、複式学級・複式授業の解消を図ってきたところでもあります。平成25年度においても、両校で複式学級が生じる見込みであり、市費負担による非常勤講師（複式学級指導支援員）を配置し、複式授業の解消を図ることとしておりますが、前年度に引き続き、県教育委員会から県費教職員及び講師を配置していただくよう強く要望して参ります。

◇大曲養護学校せんぼく分教室について

平成28年度開校予定の「大曲養護学校せんぼく分校」の開校にさきがけて、平成25年度から「せんぼく分教室」が角館児童館内に開設され、小学部8人、中学部8人、教職員11人でスタートいたします。

分教室では、本校とともに年間を通じて市民や市内小・中学校との交流行事も多数予定されており、この開校を機に県教育委員会と連携を深めながら、市内小・中学校の特別支援教育の一層の充実と市民の理解促進に努めて参ります。

【北浦教育文化研究所】

平成25年度も県教育委員会南教育事務所並びに同仙北出張所の指導主事と連携しながら、市内小・中学校の学校訪問を実施し、授業参観、授業研究会における指導助言のほか、市内研修会を開催し、市内児童生徒の学力向上に向けた授業改善、教職員の資質向上に努めて参ります。

不登校適応教室（さくら教室）については、2人の指導員を中心に、不登校児童生徒への対応や相談活動の充実と市民

や児童生徒、保護者からのいじめ事案等の相談体制を充実させて参ります。

昨年度から始まった小学校外国語活動の授業の充実のため、小学校外国語指導助手2人（市の臨時職員と県緊急雇用対策事業による臨時職員）の配置を継続し、児童生徒の国際理解と外国語への関心を高める授業を推進して参ります。

また、各学校の特色ある行事・教育活動を財政的に支援するキャリア・ふるさと教育推進事業の充実とともに、郷土資料を生かした教材等の作成など、「ふるさと教育」を力強く推進し、「ふるさとを愛し誇りに思う子ども」の育成に努めて参ります。

さらに、毎月発行している教育委員会だより「きたうら」の一層の充実を図り、市内幼稚園・小・中学校、公民館等の特色ある取り組みを中心に、市民等への広報、周知に努めて参ります。

【学校給食センター】

学校給食は、学校給食法に基づく学校教育の一環として位置づけ、児童生徒の心身の健全な発達を図ることを目的に、学校と給食センターの連携を密にしながら実施して参ります。

現在は「飽食の時代」と言われ、物質的には豊かな社会となっていますが、一方では偏った食事内容からくる栄養のアンバランスが見られます。児童生徒の偏食の矯正、食事マナー、食文化等に関する知識の向上を図り「家庭とともに歩む学校給食」を目指します。

主食の米飯給食は、全て仙北市産のあきたこまちを提供しておりますが、副食材料についても地場産物や郷土料理などを取り入れ、児童生徒が郷土の自然や文化を大切にする心を育むよう「地域と結ぶ学校給食」に努めます。

年間5回の季節行事給食やバイキング給食を実施し、思い出に残る学校給食を提供するとともに、施設及び設備の整備と衛生管理に万全をつくして参ります。

【生涯学習課】

平成24年度策定の第2次社会教育中期計画では、第1次社会教育中期計画の評価を基に、推進部会・社会教育部会・社会体育部会・芸術文化部会の各部会で、現状と課題を踏まえた今後の施策を具体的に示しています。

平成25年度は、第2次中期計画に盛り込まれた36事業の実施計画の年次計画を立案し、生涯学習の推進、芸術文化活動等の振興を図って参ります。

また、平成26年度に開催する第29回国民文化祭では、仙北市が10事業を実施いたします。平成25年度から事業が円滑に進められるよう組織体制を整え、実行委員会及び10事業の企画委員会と連携をとりながら具体的に進めて参ります。平成25年度は、「大正琴の祭典」と「アートdeまちあるき」の2事業をプレ大会として開催するほか、募集要項やリーフレット等を作成し、広報、周知に努めて参ります。仙北市では、事業を開催し来訪者を温かく迎えるばかりではなく、様々な事業を通して、市民が直接、間接的に文化にふれる機会を数多くつくり、更なる文化的風土の醸成に努めて参ります。

せんぼくアートプロジェクト推進事業は、3年目を迎え県で実施する国民文化祭県民参加事業を見据えた活用が予想されます。平成24年度は、2月現在で音楽活動4件、芸術活動2件に対して支援しております。イベントを通し地域の魅力発信や継続的な賑わい創出のため、支援を必要としている芸術文化団体等に継続した支援を行って参ります。

【公民館】

平成24年度の試みとして、各公民館がそれぞれに開催していた講座を全市民の誰でもが参加できるよう、地域の枠をはずして実施しました。特に、新規講座として開催した「男のワイルドクッキング講座」や「かっこべ編み講座」は、人

気があり大好評でした。平成25年度も市民の意見や要望を広く収集し、時代のニーズや流行を取り込むような魅力的な講座を、3公民館一体となって進めて参ります。

また、角館公民館で開催しておりました「角館公民大学」は、平成25年度から「仙北市公民大学」と名称変更するとともに、60歳以上としていた対象年齢枠を外して実施いたします。これまで参加できなかった方々の参加が可能となりますので、参加者の広がりをおおいに期待しております。

【学習資料館・新潮社記念文学館】

学習資料館では、平成25年度も引き続き図書館支援員が市内小・中学校12校を定期的に訪問し、図書のデータ入力、図書の発注、書架整理等を行う「学校図書館支援事業」を継続し、学校図書館の環境整備を進めて参ります。

また、学校図書の蔵書冊数の増加に努め、子ども読書活動の推進を図って参ります。

新潮社記念文学館では、4月中旬から「樋口一葉展」を始めとして、仙北市西木町出身で第29回国民文化祭総合プロデューサーである西木正明氏の企画展や三館合同企画展として「平福百穂 没後80年展」を計画しております。

【市民会館】

市民会館は、市で唯一の大規模ホールであり主要な文化施設であります。平成24年度は、ホール天井部の補強や耐震診断を実施いたしました。平成25年度は、一部耐震補強や屋根の防水、外壁塗装、照明機器の一部更新等、安全で適切な維持管理を行い、国民文化祭のプレイベントや種苗交換会を始めとする様々な行事やイベントの会場として、市民の皆さんが安心して利用できるよう努めて参ります。

また、市民会館事業として好評を得ております自衛隊音楽隊コンサートやロビーコンサート等、様々なメニューを企画し、魅力ある会館をアピールできるよう取り組んで参ります。

【田沢湖図書館】

田沢湖図書館は、平成23年度に外壁の老朽化による危険が指摘されています。平成25年度は、屋根の防水工事及び外壁の補修等、適切な維持管理を行い、来館される皆さんが安心して利用いただけるよう努めて参ります。

また、朗読コンサートやおはなし会など、図書館としての魅力アップを図りながら、親しみやすい多様な事業を展開して参ります。

【スポーツ振興課】

◇体育施設整備について

ふれあいプラザ西木温泉クリオンのプールについては、平成15年度から施設の老朽化や利用者の減少により営業を停止し、その後、夏の間だけ営業を再開してきました。

クリオンプールの継続利用についての要望書や請願書は合併前にも提出されておりますが、合併後においてもクリオンプール早期着工に関する陳情書が仙北市議会において採択されております。市としても市民のスポーツ振興と健康増進を図るため、プールの現状を確認し、通年営業が可能となるよう改修し、市民の利用に供したいと考えております。平成25年度は、施設や設備の基本調査を実施し、その結果に基づいて翌年度以降に実施設計並びに工事を施工して参ります。

◇各種スポーツイベントについて

平成25年度のチャレンジデーは、5月29日に開催される予定であり、市民総参加で3回目の挑戦をしたいと思います。今回は、開催当日に主な体育館を夕方から無料開放し、市民の皆さんへ参加利用を呼びかけます。体育協会や総合型地域スポーツクラブ、地域運営体等からのご協力をいただきながら、参加者の増加を図り対戦相手に勝利するとともに、市民スポーツの更なる振興に努めて参ります。

9月15日開催予定の第28回田沢湖マラソンについては、近年のマラソンや駅伝ブームもあり、今年も多く参加申し込みが予想されます。新たな駐車場の設置やシャトルバスでの輸送体制を検討し、ランナーの皆さんに喜んでいただける環境を整えて参ります。

平成25年度の冬季スポーツは、たざわ湖スキー場において、第59回秋田県高等学校総合体育大会スキー競技会と第62回秋田中学校総合体育大会スキー大会が開催されます。さらに、来る3月1日から3日まで、東北で初めて開催される全日本スノーボードテクニカル選手権大会が、平成26年度も引き続いて開催される予定です。こうした大会を数多く誘致しながら、冬季におけるスポーツフィールドとしての仙北市を各方面にPRし、たくさんの来訪者の方々をお迎えして参ります。

【文化財課】

平成25年度の重要伝統的建造物群保存地区保存事業は、小田野家主屋の修理を予定しております。特に土台等の腐朽が甚だしい状況にあり、2カ年事業で行うこととしております。

重要伝統的建造物群保存地区防災計画については、歴史的町並みと武家屋敷保存に向け、木造建造物や環境物件である景観樹木などを火災や地震、風水害等から防ぐための基本設計を予定しております。

保存地区の中核として位置づけ、歴史文化を学ぶ場としての秋田藩角館郷校「弘道書院」の復元につきましては、検討委員会の意見を踏まえ「弘道書院」跡の伝承館前広場の一画で物理探査を実施し、井戸、礎石等の位置を特定したいと考えております。

仙北市の花「サクラ」については、引き続き名勝指定の桜木内川堤と田沢湖高原ルートの高野地区で整枝作業、西木町かたまえ山森林公園においては、施肥作業等に取り組むこと

にしております。

【角館町平福記念美術館】

平福記念美術館では、平成25年度も様々な企画展を予定しております。4月には、秋田テレビと共催で「片岡鶴太郎展～角館桜舞～」を予定しております。ドラマやバラエティ番組で活躍する一方、芸術家としての一面を持つ片岡鶴太郎さんの桜をテーマにした多数の作品展示を予定しております。

7月に「女流画家協会 秋田角館展」を開催予定です。会期の途中に展示替えを行い、前期と後期の展示となります。女流画家協会は、昭和22年に三岸節子、森田元子らの女流画家11人が中心となって立ち上げた団体で、具象、抽象の分野を超えた多彩な作品を発表し続けております。平成17年度にも女流画家協会展を開催しており、今回は2回目の開催となります。

また、10月には樺細工伝承館、新潮社記念文学館との合同企画5年目の事業として「平福百穂 没後80年展」を予定しております。百穂の作品を中心として、アララギ歌人「伊藤左千夫」を知るきっかけを作った畏友である日本画家「結城素明」などの絵画作品等の展示を企画しております。

美術館におきましては、今後もより多くの皆様から気軽に芸術作品を鑑賞していただけるよう創意工夫に努めて参ります。

以上、平成25年度の教育行政の基本方針及び主要な施策の概要について申し上げましたが、本定例会に提案しております教育関係議案につきまして、慎重ご審議のうえ、ご可決賜りますようお願い申し上げます。